100円商店街 千客万来

活性化狙い全国に普及

府内11市で好評

商店街全体を一つの100円ショップに見立てた「100円商店街」が、府内で盛んに開かれている。参加する店が自玉商品を100円で販売し、買い物客を呼び込むイベントで、府内ではこれまでに大阪、枚方など11市で開催。大型商業施設に押される中、活性化策として取り組む商店街も多く、30日には箕面市内で7回目の100円商店街が始まった。（小坂田墨）

この日、同市では粟生、小野原の2地区で「箕面100円商店街」がオープンし、粟生ショッピングセンターでは11店が参加した。このうち、「博文堂書店」に訪れた親子連れらは、ノートやシャープペンシルの芯などの文房具を詰め合わせた100円の「お楽しみ袋」などを購入していた。

「ベーカーショップ プッペ粟生」は、ほとんどの商品を100円で販売。サンドイッチなどを買った近くの会社員、中西計寿さん(44)は「時々、この商店街で買い物をしますが、お得感があって少し買いすぎました」と笑顔で話した。

箕面市で、初めて100円商店街が催されたのは2010年11月。市商店会連合会会長の野口博史さん(67)は「小さな商店が力を合わせ、こうした取り組みを続けてきた。新しい客の開拓にも結びついている」と効果を説明する。

センター内には、巨大なゾウの形をしたエアマットが置かれ、中では子供たちが楽しそうに遊んでいた。野口さんは「毎回、子供向けのイベントも行い、家族で来てもらえるように工夫している」と語る。

＊

100円商店街は04年7月、山形県新庄市で初めて開かれた。同市で地域活性化活動に取り組むNPO法人「アンプ」が企画。同市内では恒例行事となり、開催回数は50回を超える。アンプの担当者は「いい商品があるのに、商店街そのものを知らないという人が多い。100円商店街は、そうした人に来てもらうきっかけづくり」と話す。

100円商店街は公的な補助金に頼る必要が少なく、事業そのものにかかる費用もチラシ代程度と、費用対効果に優れた取り組みとして、全国124市町村の商店街が取り組んできた。

同法人によると、府内では09年11月に東大阪市で催されたのが初めてといい、その後、大阪、守口両市などで続いた。大阪商工会議所は普及・推進に力を入れており、大阪市内での開催回数は10年4月以降、21地域の52商店街で延べ184回に上るという。

今月23日には、都島区・京橋と福島区・野田新橋筋の両商店街で実施。京橋は24回目、野田新橋筋は21回目で、両商工会議所の流通・サービス業部の担当者は「必ず人が集まるイベント。楽しみにしているお客さんも多い」と魅力を語る。

＊

箕面市の100円商店街は31日が牧落、2月6日が桜井、翌7日が箕面の各地区で催される。時間は午前10時～午後4時。問い合わせは箕面商工会議所（072・721・1300）へ。

文房具などを詰め合わせたお楽しみ袋を手にする親子連れら（箕面市で）